

Environmental Management Report

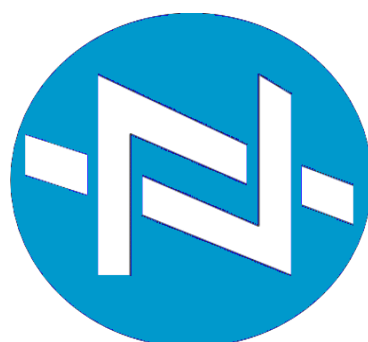
環境経営レポート



野村産業株式会社

【対象期間 2025年05月～2026年04月】

【発行日 2026年07月30日】



■ 目次

●会社概要	P3～P4
●対象範囲	P3
●環境経営方針	P5
●実施体制	P6
●環境経営計画・取組内容	P7
●2025年度設備導入	P8
●緊急事態の対応及び訓練状況	P9
●環境経営目標の実績	P10～11
●環境関連法規の順守状況・訴訟等の有無	P12
●次年度の環境経営目標	P13
●次年度の環境経営計画	P14
●代表者による全体の評価と見直しの結果	P14

■ 野村産業株式会社岩手工場会社概要

項目	内容	
事業所名	野村産業株式会社 岩手工場	
所在地	本社 府中工場	〒183-046東京都府中市西原町1-13-3
	岩手工場	〒029-4204 岩手県奥州市前沢字本杉128
	(倉庫)	前沢字長檀58
代表者	執行役員工場長 齋藤 淳	
創業	昭和11年3月	
資本金	2,000万円	
社員数	56名	
環境管理責任者 及び連絡先	管理責任者	工場長付 千田 芳裕
	TEL	0197-56-3107
	FAX	0197-56-2619
事業内容	精密板金加工、試作、金型製作、機械加工	
車両保有台数	10 tトラック：1台	
	4 tトラック：1台	
	営業車：2台	
	フォークリフト：2台	
認証登録範囲	岩手工場 全事業活動	
売上げ	約8.2億円 (岩手工場)	

■ 主要設備

設備SE	能力	台数
シャーリング	1200/2000mm	2
パンチ・レーザー複合機	1250×2500mm	2
レーザー加工機	4kw 1524×3048mm	1
CAD／CAM等	—	8
3Dバリ取り機（乾式）	サイト×1000mm	1
バリ取り機（湿式）	サイト×600mm	1
シートメタル洗淨機	最大ワーク幅1000mm	1
プレス	300t～60t	7
セットプレス	35t～30t	3
レベラーフィード	3.2t×420mm	1
レベラー	3.2t×600mm	1
NCプレスブレーキ（ベンダー）	170t～60t	8
追従機	2000mm	1
NCタッピング	900x1800mm	2
テーブルスポット溶接機	80KVA	1
スポット溶接機	50KVA～8KVA	9
Yagレーザー溶接ロボット	6KW	1
Yagレーザー溶接機	19kva	1
協働ロボット	11.4kva	1
アルゴン溶接機	14.5KVA	5
半自動（CO2）溶接機	7.6KVA	4
スタッド溶接機	—	3
NCスタッド溶接機	—	1
多軸タップ	22軸500x200mm	2
卓上タップ	M2～M8	7
かしめ機	0.75KW	1
ワイヤーカット放電加工機	350x500mm	2
平面自動研削盤	600x500mm	1
マシニングセンター	テーブル2300mmと#40	2
汎用旋盤	—	2
汎用フライス盤	縦型、横型	4
ラジアルボール盤	1000mm	1
卓上ボール盤	～φ13	5
帯鋸盤	250x250mm	1
レーザーQC測定器	0.05mm	1
コンプレッサー	～22kw	4

■ 2025年度 岩手工場環境経営方針

1. 野村産業株式会社 岩手工場は、板金加工による金属製品の提供を通じ、社会に貢献する事を目指します。
2. 電気使用量、廃棄物の削減等を通じて、岩手工場の事業活動によって生じる環境負荷を低減していきます。また、これらの活動を通じて、お客様が安心して当社との取引を行える事を目指します。
3. エコアクション 2.1 の運用により、環境経営の継続的な改善を行います。
4. 製品含有化学物質管理等、事業活動に関わる環境関連法規等を遵守します。

制定 2007年7月1日
改定 2023年5月1日

野村産業株式会社 岩手工場
執行役員工場長 齋藤 淳

■ 2025年度 岩手工場環境経営目標

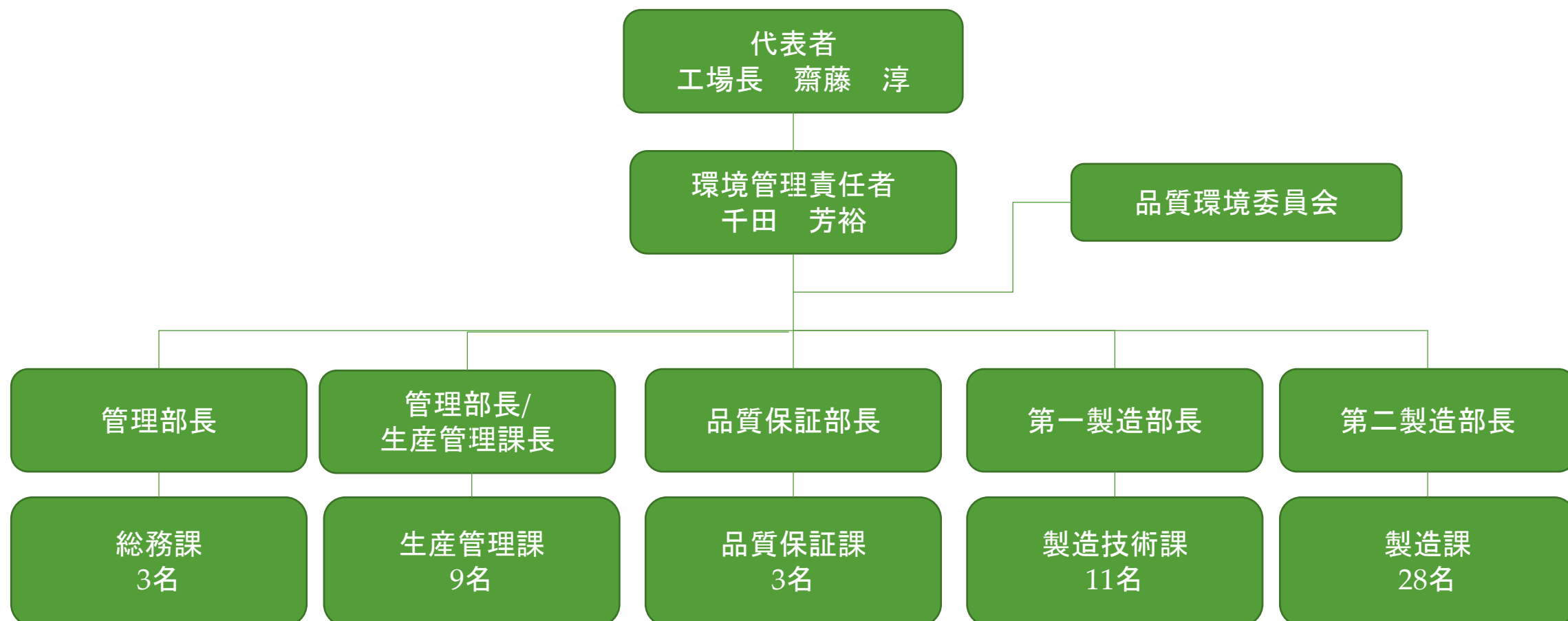
1. 温室効果ガス排出量削減（売上原単位）
スコープ1, 2（自社事業活動、購入エネルギー）において、
 - ・ 2013年度実績に対して、2030年度50%削減。
 - ・ 2013年度実績に対して、2025年度36%削減。
2. 廃棄物排出量及び廃棄物最終処分量
（排出量、処分量は売上原単位）
 - ・ 過去3年間平均値に対して1%削減。
 - ・ 工程不良率の低減。
3. 環境及び労働安全上の緊急事態対応
 - ・ 教育訓練の実施（年1回）
4. その他
 - ・ 地域貢献；年1回。
 - ・ 水使用量の管理；節水励行とデータ監視。（対象は生活用水のみ）
 - ・ 有害化学物質の周知。化学物質管理責任者選任と自律管理検討開始。

制定 2007年7月1日
改定 2025年5月1日

野村産業株式会社 岩手工場
執行役員工場長 齋藤 淳

■ エコアクション21環境活動実施体制

2026年5月1日



■ 職務分掌

役割	担当者	職務（責任・権限）
代表者	工場長 齋藤 淳	①環境経営方針の制定。 ②環境管理責任者を任命する。 ③環境管理責任者からの報告を受け全体の見直しをする。 ④取り組みに対する資源を用意する。
環境管理責任者	工場長付 千田 芳裕	①代表者に代わってシステムを構築し、運用する。 ②代表者に結果を報告する。
品質環境委員会	委員	環境活動計画における問題点の協議
部門責任者	各担当部課長	部門内において ①省資源、省エネ、節水を奨励・実施する ②EA21の目標達成の取組を推進し、チェックをし、環境管理者の了承の下、必要な是正処置・改善を行う ③公害防止、緊急事態への予防措置を行う
コミュニケーション窓口	環境管理責任者	①地域住民、関連機関からの苦情等の窓口業務を行う。 ②苦情への対策・予防処置策定を行い、代表者の承認を受け関係者に実施を指示し、経過・結果の報告を受け改善・定着を図る。
社員	L D ・ 係員	①部門責任者の下、省資源、省エネ、節水に努める。 ②EA21取組に関する教育訓練を受ける。 ③改善提案を行なう。

■ 環境経営計画

◆ 温室効果ガス削減

- ・設備更新時はエコ型新設備の入れ替え
- ・エアコンの適切な温度管理
- ・休み時間の消灯、不要な照明はこまめに消灯
- ・電源不要時の電源遮断
- ・エコ運転の励行

◆ 廃棄物の削減

- ・分別による再資源化
- ・裏紙使用の推進
- ・紙・段ボールのリサイクルの推進

◆ 水使用量の維持管理

- ・節水の徹底

◆ 製品サービス

- ・工程不良率の削減

◆ 資質教育

- ・資質向上の教育

◆ 地域貢献

- ・工場周辺歩道の清掃

■ 取組内容



👉 ◆ 工場周辺の歩道清掃

- ・地域貢献活動の一環として、工場周辺の歩道の清掃活動を実施しました。
- ・今後も定期的な清掃活動を通じて、美しい地域環境維持に努めます。

◆ グリーンカーテン👉

- ・昨年に引き続き夏場の節電対策として、建物の温度上昇抑制、省エネのため、グリーンカーテンの育成を行いました。
- ・収穫されたゴーヤは希望する従業員に配布し、それぞれの家庭の食卓に並びました。



◆ 2025年度設備導入



👉 ◆ 精密平面研削盤

- ・油圧レス駆動によるオイルコストの削減、環境負荷の軽減
- ・ACサーボモーターによる高効率駆動で、消費電力を大幅に削減

◆ YAGレーザー溶接機 👉

- ・ワイヤー供給機能の導入により肉盛り溶接の精密制御を実現
- ・歪み取りや過度なサンダー掛け等の二次加工工数を削減
- ・省エネルギー化と廃棄物削減による環境負荷低減に貢献



◆ 緊急事態の対応及び訓練状況



👉 ◆ 消火器訓練

- ・安全衛生委員で訓練実施。
- ・地元消防団員として活躍されている従業員に、消火器の使い方についてご説明いただきました。

◆ 廃油漏洩対応訓練 👉

- ・地震により、廃油のドラム缶が転倒し、何らかの原因で廃油が漏洩した場合を想定し、訓練を実施しました。
- ・土嚢による廃油の塞き止めとオイルシートで廃油回収の訓練を実施しました。



👉 ◆ 避難訓練

- ・火災発生を想定し、避難訓練を実施しました。
- ・煙を吸い込まないように、口を覆って避難しました。

◆ 通報訓練 👉

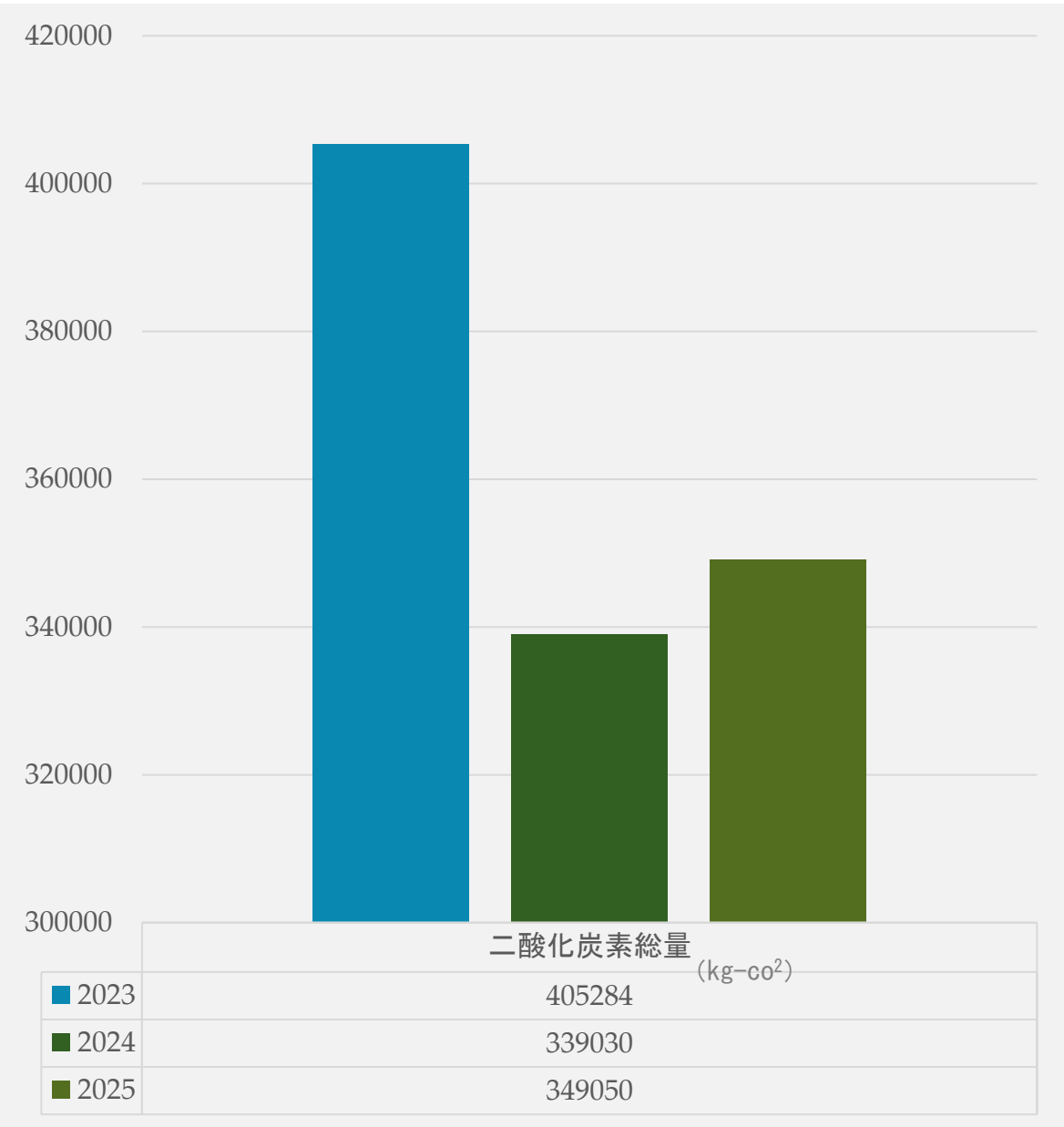
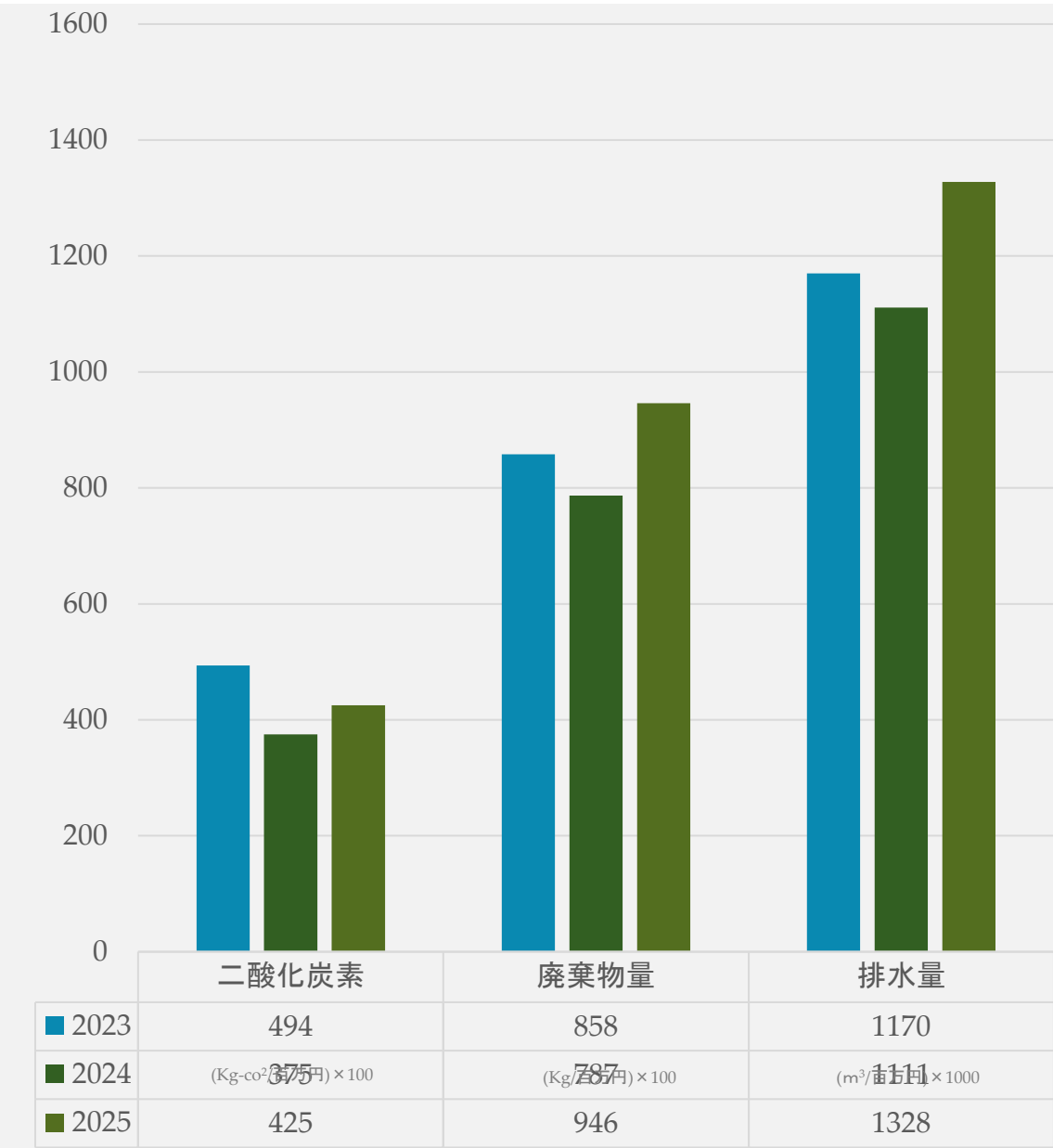
- ・通報訓練の内容
 - 住所と会社名
 - 何から出火したのか
 - 初期消火はしているか
 - 従業員は避難しているか
 - 従業員は何名か
 - 通報者名、電話番号



■環境経営目標の実績

2025年度実績						
評価基準 【定量目標】 ○：達成率100%以上 △：達成率70%以上 ×：達成率70%未満 【定性目標】 ○：目標達成 △：一部達成 ×：未達成						
		基準値	2025年			評価
			目標	実績	達成率	
温室効果ガス 排出量 ※1	K g -Co ² /百万円 (売上げ高原単位)	926	565.1	425.09	124.78	○
廃棄物排出量	K g /百万円 (売上げ高原単位)	8.10	8.02	9.46	82.09	△
水使用量	90L/人・日	データ 管理	継続	継続	データ 管理良好	○
製品	%	0.494	0.385	0.413	92.73	△
資質教育	回	1	1	1	良好	○
地域貢献	回	1	1	1	良好	○

※1 電力の排出係数は、大熊るるん電力2025年度調整後排出係数0.380kg-CO2/kWh



※電力の排出係数は、大熊るるん電力2025年度調整後排出係数0.380kg-CO2/kWh

◆温室効果ガス削減【目標達成】

- ・近年の設備の更新・太陽光発電パネル設置などの効果が現れている。
- ・引き続き、温室効果ガス排出の抑制に取り組んでいきます。

◆廃棄物の削減【目標未達成】

- ・コンテナの廃棄等、突発的要因が発生し、当初計画を上回った。
- ・引き続き、分別を行い再資源化と紙・段ボールのリサイクルを行います。

◆水使用量の維持管理【維持管理良好】

- ・従業員の節水意識の定着により、安定した水使用量を維持しております。
- ・手洗い時の節水を呼びかけるポスターの掲示し、節水に関する意識啓発を行っております。
- ・今後も、継続して、データ管理を行います。

◆製品サービス【目標未達成】

- ・目標には届かなかったものの、前年度の工程内不良率と比較して改善傾向にあります。
- ・2026年度は、よりお客様の視点に立った品質管理を強化するため、評価指標を「工程内不良率」から「市場不良率」へと切り替えます。

◆資質教育【目標達成】

- ・継続して資質教育を行います。

◆地域貢献【目標達成】

- ・地域社会への貢献活動の一環として、地元の中学生を対象とした工場見学を行いました。本活動は、将来を担う若者たちに製造業の現場を直接見て触れる機会を提供し、地域産業への理解を深めることを目的としています。工場見学では、当社の環境への取り組みについても説明し、持続可能な社会の実現に向けた意識啓発に努めました。
- ・今後も工場周辺の美化活動と工場見学の受け入れを積極的行います。

■ 環境関連法規の順守状況

適用される法規制	適用内容・概要	対象	遵守評価
廃棄物処理法	産業物廃棄管理表（マニフェスト）の交付と保管	産業廃棄物	○
公害防止組織法	公害防止管理者の届出	液圧プレス、機械プレス、せん断機、圧縮機	※1
騒音規制法	騒音発生特定施設の届出	液圧プレス、機械プレス、せん断機、圧縮機	○
	規制基準の遵守		
振動規制法	振動発生特定施設の届出	液圧プレス、機械プレス、圧縮機	○
	規制基準の遵守		
フロン排出抑制法	フロン漏洩防止・簡易点検の実施	空調室外機、加工機チラー、冷水器	○
下水道法	使用開始届出		○

関連機関より、法令違反の指摘はありません。

※1 公害防止管理者は外部委託中

■ 訴訟等の有無

関連機関及び住民からの苦情・訴訟はありませんでした

苦情受けと措置結果				工場長	課長	担当部門	作成
受付年月日	発生元区分		顧客 地域 行政 内部 その他				
発生元	氏名	住所					
	電話	FAX		メール			
受付者 役職氏名	転送順						
苦情内容							
一次解答内容							
環境管理責任者見解							
関連部門長見解							
処理・措置が必要な場合の処理・措置内容と結果							
処理・措置結果に対する環境管理者見解							
発生元へ対応							
代表者の評価							

■ 2026年度の環境経営目標

1. 温室効果ガス排出量削減（売上原単位）

スコープ1, 2（自社事業活動、購入エネルギー）において、

- ・2013年度実績に対して、2030年度50%削減。（926→463kg-CO₂/百万円）
- ・2013年度実績に対して、2026年度41%削減。（926→546kg-CO₂/百万円）

2. 廃棄物排出量及び廃棄物最終処分量（排出量、処分量は売上原単位）

- ・過去3年間平均値に対して1%削減。

（注；セキュリティ規定の制定によって、紙廃棄量大幅増の可能性あり）

紙1.0kg当たりCO₂排出量1.1kg。大幅に増加した場合、概算の影響を把握する。

- ・市場不良率の監視 0.1%以下

3. 環境及び労働安全上の緊急事態対応

- ・教育訓練の実施（年1回）

4. その他

- ・地域貢献；年1回。
- ・水使用量の管理；節水励行とデータ監視（対象は生活用水のみ）
- ・有害規制物質の周知と自主管理

制定 2007年7月1日

改定 2026年5月1日

野村産業株式会社 岩手工場
執行役員工場長 齋藤 淳

中期目標

		基準値	2026	2027	2028
温室効果ガス 排出量	Kg-CO ₂ /百万円 (売上げ高原単位)	926	547.6	518.8	2027年度実績を 基に策定
廃棄物排出量	Kg/百万円 (売上げ高原単位)	8.10	7.94	7.86	
水使用量	90L/人・日	データ 管理	継続	継続	
製品サービス	%	年間の結果をみ て、品質目標と 連動	0.1	0.1	
資質教育	回	1	1	1	
地域貢献	回	1	1	1	

■ 次年度の環境経営計画

■ 温室効果ガス削減

- ・設備更新時はエコ型新設備の入れ替え
- ・エアコンの適切な温度管理
- ・休み時間の消灯、不要な照明はコマめに消灯
- ・電源不要時の電源遮断
- ・エコ運転の励行

■ 廃棄物の削減

- ・分別による再資源化
- ・裏紙使用の推進
- ・紙・段ボールのリサイクルの推進

■ 水使用量の維持管理

- ・節水の徹底

■ 製品サービス

- ・市場不良率の監視

■ 資質教育

- ・資質向上の教育

■ 地域貢献

- ・工場周辺歩道の清掃
- ・地域学生の工場見学受け入れ

■ 代表者による全体の評価と見直しの結果

見直し項目	評価	見直し指示
1.環境方針	エコアクション21, 2017年版要求事項に沿っており、適正と考えます。	2026年のアドバンスト版にGHGの記述がありますが、scope-1,2のCO2に関しては現在も活動対象であり、環境方針の見直しは今年度は行いません。 scope-3については、材料メーカーの計画動向によって対応を検討します。
2.環境目標	工程不良率の目標設定が昨年度4月に間に合わず、簡易的な設定に留まってしまった。	データ数が少なく統計的な算出に不足している為、今年度は市場要求値を元にした、市場不良率に変更します。
3.環境活動計画及び環境経営システム	審査結果等を適宜フィードバックしており、計画、システム運用とも良好と考えます。	見直しの必要は無いと考えます。
4 実施体制	実施体制も問題ないと考えます。	組織変更に伴う体制図の名称変更のみとします。
5 その他	情報セキュリティの自己診断の運用により、資源のリサイクルを見直す必要が出るかもしれません。次年度以降の見直しと予想しています。	自己診断運用開始に合わせて、見直しの検討をします。
6 全体評価	工程不良率を除き結果は良好です。工程不良率の影響はマクロにはCO2排出量低減でカバーできていると考えますが、不良率についてはQMSと共に、活動を継続して行います。	